

2010年(平成22年)3月17日(水曜日)

中 新 聞

# 「ひだほまれ」30歳

農家や酒造  
関係者ら

## 高山で記念交流会

飛騨地方の酒米「ひだほまれ」が誕生して今年で三十年目になるのを記念して、全農岐阜が十六日、高山市のひだホテルプラザで産地交流会を開き、飛騨地方の生産農家や酒造関係者ら百四十人が出席しこれまでの軌跡を振り返った。

ひだほまは一九七一年、飛騨の品種に兵庫や福井の品種を交配して生まれ、八一年に命名されて栽培が始まった。米の芯が大きく表面が粗いため、こうじが米にとけ込みやすく発酵しやすいのが特徴



全農岐阜の大池裕会長から感謝状を受け取る県酒造組合連合会の中島善二会長(左)＝高山市のひだホテルプラザで

で、現在は飛騨、東濃、まれの発展に貢献した両地方で生産されており、二〇〇八年の作付面積は百三十三畝。交流会では、ひだほ

てひだほまれの育種改良に取り組んだ高山市の大坪義雄さんが育種の歴史や特性について話した。

この後、飛騨酒造組合の上野田隆平理事長が「ひだほまれの今後の期待」と題して講演した。

(白山泉)